



ビジネスと IT の 課題を

Red Hat Enterprise Linux 10 で解決する

10



目次

1 Red Hat Enterprise Linux：
イノベーションへの取り組み

2 Linux のスキルギャップへの対処

4 ドリフトを抑制し、
デリバリーを加速

6 ビルド時の意思決定を
向上

8 ハッカーによる
セキュリティ攻撃を阻止

10 クラウドへのワークフロー
のデプロイを迅速化

12 AI をより迅速にビジネス
に活用

14 Red Hat Enterprise
Linux 10 にアップグレード



Red Hat Enterprise Linux： イノベーションへの 取り組み

**Red Hat® Enterprise Linux®
は 25 年以上にわたり、エン
タープライズ・イノベーションの
ベンチマークとなっています。**

Red Hat Enterprise Linux はリリース当初から、従来型オペレーティングシステムに代わる信頼性とコスト効率に優れた選択肢を提供することで、Unix から Linux への移行を円滑にしてきました。これにより、企業がプロプライエタリー・プラットフォームからオープンソース・ソリューションへと移行するにつれ、あらゆる業界で Linux の導入が加速しました。

クラウド・コンピューティングと仮想化によって IT 環境が変化する中、Red Hat Enterprise Linux は動的でスケーラブルなワークロードに対する高度なサポートを提供しました。統合されたクラウド・テクノロジーとコンテナ・ソリューションにより、Red Hat Enterprise Linux は先進的なアプリケーションのニーズを満たし、アジャイルでクラウドネイティブな企業の中核的なテクノロジーとなりました。

人工知能 (AI) が急速に拡大する中、Red Hat Enterprise Linux は、革新的な Red Hat AI ソリューションのための信頼性と一貫性に優れた基盤となります。システムの信頼性、パフォーマンス、イノベーションに関する数十年にわたる専門知識に基づき、Red Hat Enterprise Linux は、急速に変化する市場で企業が競争力を維持できるよう、堅牢なインフラストラクチャと高度なツールを提供し続けています。



Red Hat Enterprise Linux 10 に搭載された新機能は、主要なビジネス上の課題や IT 課題の解決に役立ちます。

Red Hat Enterprise Linux 10 によって 次のことが実現します。

- ▶ **Linux のスキルギャップに対処：**Red Hat の数十年にわたる知識と専門性を活用
- ▶ **ドリフトを抑制し、デリバリーを加速：**コンテナツールおよびテクノロジーを活用
- ▶ **ビルド時の意思決定が向上：**変更が容易でコスト効率の高い段階で対応可能
- ▶ **ハッカーによるセキュリティ攻撃を阻止：**量子コンピューティングの進展に対応
- ▶ **ワークロードをクラウドに迅速にデプロイ：**パフォーマンス向上のために事前構成済みのイメージを使用
- ▶ **AI をより迅速にビジネスに活用：**信頼性の高い基盤と、幅広いパートナーおよびツールのエコシステムを活用

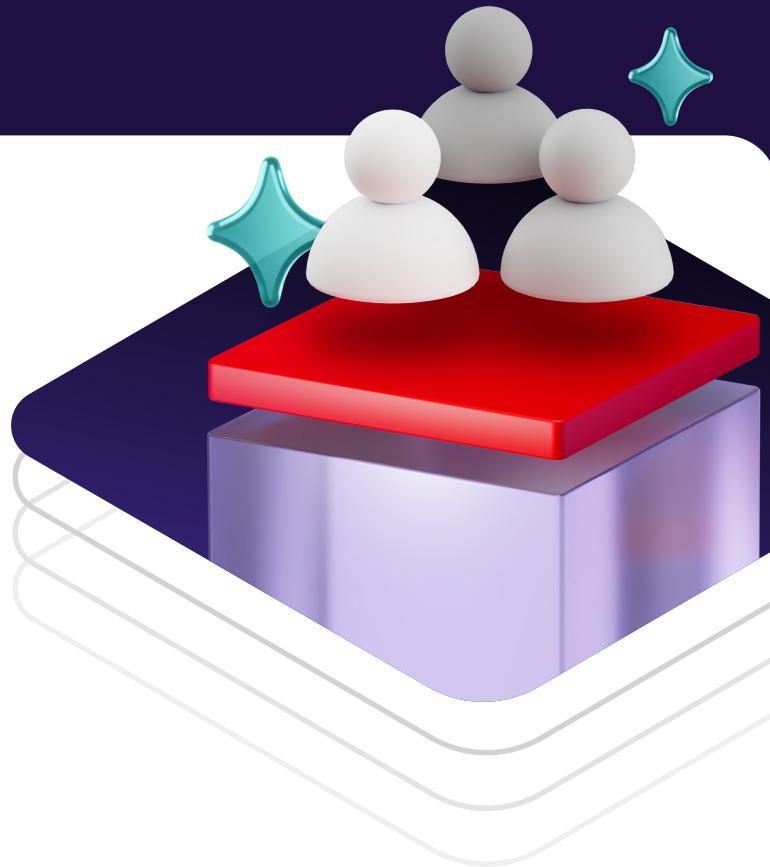
Linux のスキルギャップへの対処

Linux は依然として複雑なオペレーティングシステムです。

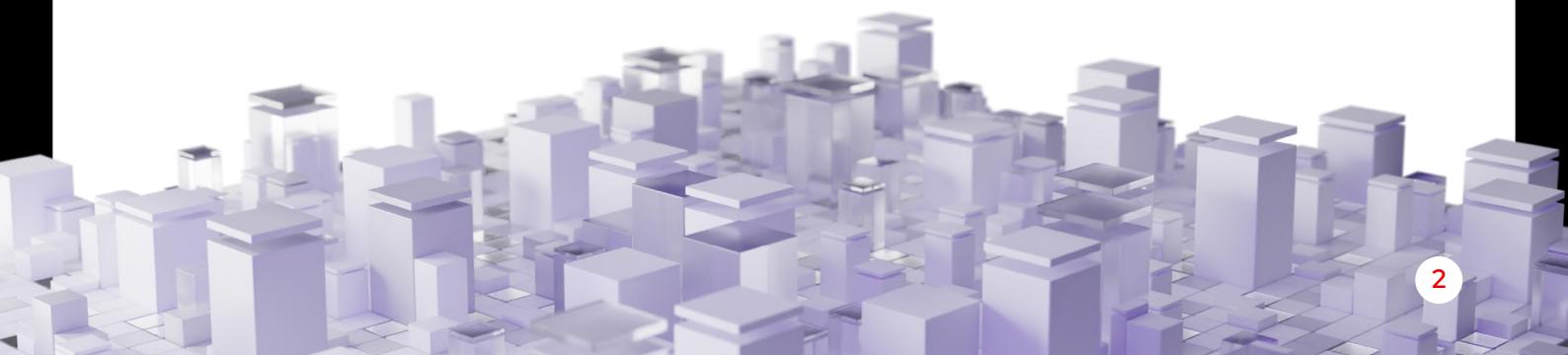
オンサイト・インフラストラクチャ、パブリッククラウドリソース、エッジデプロイメントでの Linux の利用が増えるにつれ、熟練した IT プロフェッショナルに対する需要は高まり続けています。

オープンソース・テクノロジーの普及に伴い、Linux に関する詳細な専門知識の必要性は IT 部門を超えて、サイバーセキュリティ、クラウド管理、DevOps などの分野にも広がり、既存の従業員へのプレッシャーはさらに大きくなっています。

しかし、経験豊富なプロフェッショナルが全体的に不足しているため、熟練したシステム管理者やアーキテクトの雇用は多くの企業にとって困難かもしれません。その結果、Linux に関するスキルと知識をめぐる競争が激化し、経験豊富なスタッフの確保と維持が難しくなる可能性があります。重要な業務に Linux を利用している企業は、他社よりも高い給与と充実した福利厚生を提供する必要があり、採用の課題はさらに深刻化しています。



また、多くの企業は、新人 IT 担当者のトレーニングに十分なスタッフの時間やリソースを割り当てることに苦慮しています。これが専門知識を持つ既存スタッフの作業負荷の増加や燃え尽き症候群の可能性につながり、生産性とイノベーションを阻害することがよくあります。Linux が先進的なアプリケーションおよびワーカロードをサポートするように進化するにつれ、包括的なドキュメント、ユーザーガイド、**共通脆弱性識別子 (CVE)** の更新など、重要な知識や情報へのアクセスの効率化と迅速化が、効率的な IT 運用の維持に不可欠になっています。



AI 活用によって向上したユーザー エクスペリエンス

Red Hat Lightspeed は、Red Hat が数十年にわたって培ってきたエンタープライズ Linux の専門知識と**生成 AI** のテクノロジーを融合したもので、初心者から経験豊富な IT プロフェッショナルまで幅広く知識を提供し、複雑なハイブリッド環境やマルチクラウド環境における Red Hat Enterprise Linux の構築、デプロイ、管理を単純化します。Red Hat Enterprise Linux 10 の新たなコマンドライン・アシスタントは、生成 AI を使用して、Red Hat Enterprise Linux の**ドキュメントやナレッジベースの記事**などのリソースから取得した情報をユーザーの端末に迅速に提供します。コマンドライン・アシスタントでは平易な言葉でやり取りでき、コマンドラインから質問すると、自然言語で回答が得られます。この使いやすさに

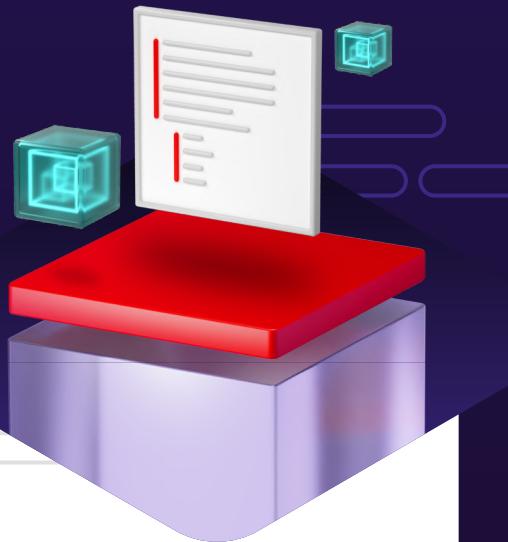
より、重要な情報や解決策をより早く見つけることができるため、さまざまな環境にわたって Red Hat Enterprise Linux を効率的に管理できます。また、コマンドライン・アシスタントからの推奨事項や実用的なガイダンスにより、問題のトラブルシューティングを迅速に行うことができます。その結果、初心者のチームメンバーは新しい Linux スキルを習得してすぐに作業効率を高めることができ、経験豊富なチームメンバーはより短時間でより多くの価値を提供できるようになります。

新しいコマンドライン・アシスタントの詳細をご覧ください。

Web ページを確認する



ドリフトを抑制し、 デリバリーを加速

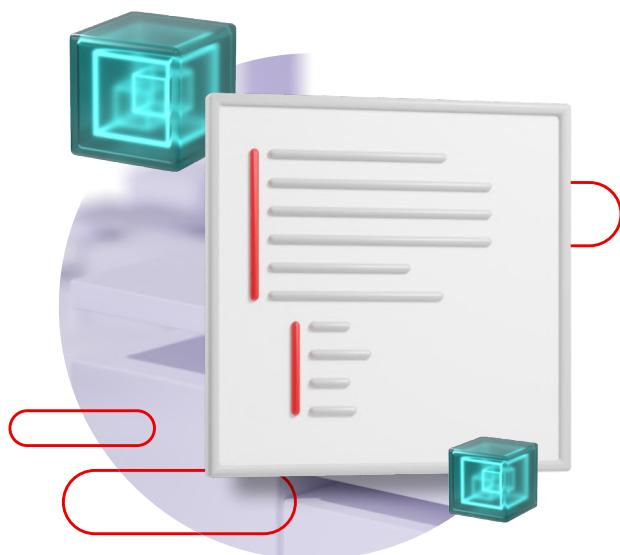


オペレーティングシステムのアップデートとパッチは重要でありながら困難なIT管理タスクであり、継続的な注意と多大なリソースを必要とします。

たとえば、CVEへの対処は、広範囲にわたる事後対応型の作業であり、重要なチームメンバーが非常に多くの時間をかける必要があるばかりか、パッチを適用しても新たな複雑性を招くことなく問題が解決されるという保証はありません。しかしながら、システムアップデートとパッチ適用を怠ることは許されません。そうすることでシステムが脆弱になり、潜在的な脅威にさらされる可能性があるからです。

もう1つの課題は、さまざまなステークホルダーの相反する優先事項とリスク許容度のバランスを取ることです。ビジネスリーダーはシステムの安定性と中断の最小化を重視し、IT運用チームはセキュリティとコンプライアンスを重視しています。同時に、開発者は革新的なアプリケーションを構築するために、最新のテクノロジーをサポートする柔軟な環境を必要とします。業務の継続性の維持と重要な新規サービスの提供を両立しようとする場合、このような相反する優先事項によって、IT管理のプロセスがさらに複雑化する可能性があります。

サーバー構成に一貫性がないとアップデートプロセスが妨げられ、多くの場合、技術的負債の増加や将来の管理作業の妨げとなるような、カスタマイズされたアプローチが必要になります。脆弱性の迅速な特定、修復、検証は極めて重要であり、遅延や一貫性の欠如は、重要な業務をリスクにさらす可能性があります。システムの整合性を保護し、ビジネス継続性を確保するには、アジャイルかつシンプルなアップデートとパッチ管理のプロセスおよびテクノロジーが不可欠です。



コンテナネイティブのアプローチを使用して 一貫性のあるシステムを構築し管理する

Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードは、ハイブリッドクラウド環境全体でオペレーティングシステムを一貫して効率的に構築、デプロイ、管理するためのコンテナネイティブな新しい方法をもたらします。コンテナネイティブのテクノロジーとアプローチにより、ランタイム、ドライバー、依存関係を単一の包括的なイメージにまとめ、そのイメージをハイブリッドクラウド環境全体にデプロイできます。統一されたアップデートを IT インフラストラクチャ全体に一貫して提供することで、構成のドリフトや不整合を軽減し、重要なワークロードの安定性を向上することができます。

CVE がシステムに影響を与える場合、Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードによって環境全体の問題をより短時間で軽減または解消できます。脆弱性の修正プログラムが特定されたら、それを新しいコンテナイメージに実装し、開発チーム、品質保証チーム、セキュリティチームなどの主要なステークホルダーとイメージを共有して、レビュー、テスト、検証を行うことができます。修正が検証されたら、コンテナイメージをレジストリに公開して、すべてのシステムに効率的かつ自動的に配布することができます。

Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードがドリフトの抑制とデリバリーの加速にどのように役立つかをご覧ください。

[Web ページを読む](#)

イメージモードを 体験する

Red Hat Enterprise Linux 用
イメージモードの概要のラボにア
クセスして、利用を開始してくだ
さい。

Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードを使用することで、開発チームと運用チームは同じツールセットを使用して作業できるので、異なる環境を管理するために個別のプロセスやツールセットを用意する必要性が低下します。GitOps や継続的インテグレーション/継続的デリバリー (CI/CD) といったコンテナネイティブな手法を用いて、Red Hat Enterprise Linux のワークロードを管理できます。自動化されたアップデート、バージョン管理、ロールバック、継続的な改善ワークフローにより、手動による介入やエラーのリスクが減少し、継続的な管理タスクではなく革新的なプロジェクトに集中できるようになります。



ビルド時の意思決定を向上

ソフトウェア・インフラストラクチャを構築する際には、そのプロセスの早期段階で十分な情報に基づいた意思決定を行うことが不可欠です。

実稼働における問題解決に必要な時間とリソースは膨大になる可能性があり、IT運用とビジネス継続性の両方に影響を及ぼします。

現代のIT環境は複雑なので、些細な選択でも長期的な影響を及ぼすことがあります。早期に綿密な意思決定を行うことで、デプロイメント後の問題対応に伴う高額な修復費用や運用の中止を回避できます。

しかし、包括的な計画策定には多大な時間と労力が必要になります。ITプロフェッショナルは、リリースノート、ナレッジベースの記事、ユーザーガイド、技術ホワイトペーパー、業界ブログなど、複数の情報源を分析し、潜在的なリスクとベストプラクティスを理解する必要があります。このような情報は複数のプラットフォームに分散していることが多いため、関連する詳

細情報を見つけ出し、解釈し、つなぎ合わせて全体を把握することが必要です。

さらに、テクノロジーは急速に進化しており、新しいアップデート、セキュリティの脆弱性、コンプライアンス要件が毎日のように発生しています。セキュリティ、パフォーマンス、既存システムとの統合など、相反する優先事項のバランスを取りながら、変化する技術的状況を継続的に評価することが求められます。

データの量が膨大で変化のスピードが速いため、デプロイメントの前に十分な情報に基づいた選択をすることは困難です。その結果、ITチームは不完全な情報や古い情報に基づいて意思決定を行わなければならないことが多く、実稼働においてコストのかかるやり直しが発生するリスクが高まります。



プロセスの適切な段階で重要な情報と推奨事項にアクセス

Red Hat Lightspeed (旧 Red Hat Insights) のイメージビルダーを使用して、プロアクティブなパッケージ推奨にアクセスできるようになりました。console.redhat.com を使用して **イメージをビルド** すると、ユーザーが選択したパッケージがプロアクティブにスキャンされ、選択内容に基づいて関連するライフサイクル情報とパッケージ推奨が提供されます。これらの推奨事項は、変更が容易でコスト効率も高いことが多いビルト時に、より多くの情報に基づいた意思決定を下すのに役立ちます。

Red Hat Lightspeed 搭載の Red Hat Enterprise Linux のプランニング機能により、Red Hat Enterprise Linux の将来のバージョンを把握できるため、新機能や廃止予定機能など、今後の変更を事前に確認できます。このロードマップ機能は、特定の Red Hat Enterprise Linux のデプロイメントに合わせてカスタマイズされており、ユーザーは将来のアップデートが使用中の環境にどのような影響を与えるかを詳細に把握できます。アーキテクトやシステム管理者は、Red Hat に登録されているシステムへの影響を評価するレポートを生成

し、より情報に基づいた計画策定と効率的な運用をサポートできます。

新しいシステムを構築するため Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードを使用する場合は、事前に強化されたイメージをデプロイすることで、多くの管理タスクにかかる時間を大幅に短縮できます。ビルトフェーズでガードレールを導入することで、セキュリティおよびコンプライアンス対策が最初から組み込まれ、より確実かつ効率的にシステムをデプロイできます。

セキュリティ重視のビルトシステムとソフトウェア部品表 (SBOM) アーティファクトの自動生成は、サプライチェーンプロセスの強化に役立ちます。ランタイム SBOM を生成することで、ソフトウェア・コンポーネントの可視性が向上するだけでなく、セキュリティ対策を強化し、規制遵守を確保できます。この統合アプローチは、監査を効率化し、明確なドキュメントを提供することで、ソフトウェア・ライフサイクル全体にわたるプロアクティブなセキュリティポスチャを強化します。

Red Hat Lightspeed が IT 管理にかかる時間、労力、コストの削減にどのように役立つかをご覧ください。

Web ページを読む

ハッカーによる セキュリティ攻撃を阻止

効果的な IT セキュリティには、革新的な思考とプロアクティブな戦略が必要です。

特に懸念されるのは、量子コンピューティングが現在の暗号化方式に与える影響です。

量子技術の進歩に伴い、現在広く使用されている暗号化方式は数秒で破られ、既存の暗号化基準は時代遅れのものになる可能性があります。この新たな脅威は、多くの既存技術の長期的な存続可能性と、新たな**ポスト量子暗号**基準の必要性について疑問を提起しています。



Linux ベースのアプリケーションに依存している政府機関や組織は、厳格なコンプライアンス要件への対応に直面しています。**連邦情報処理規格 (FIPS)**への準拠は、そのセキュリティ基準が厳格であることから、時間とリソースを大量に消費するプロセスとなります。サイバー脅威が進化し、規制要件が変化する中、政府機関は運用効率を損なうことなく、セキュリティを重視したコンプライアンス対応のシステムを提供する必要があります。

人工知能の急速な普及は、IT セキュリティをさらに複雑にしています。多くの AI ワークフローは機密性の高いデータにアクセスするため、AI アプリケーションのライフサイクル全体を通してプライバシー、セキュリティ、コンプライアンスを維持することがより困難になっています。セキュリティ上の欠陥は、甚大な経済的損害と評判の低下につながる可能性があるため、組織は、AI ベースのアプリケーションを保護し、データ保護を確実にする戦略を策定する必要があります。



最新のイノベーションを最大限に活用したセキュリティ機能で保護を強化

Red Hat Enterprise Linux 10 には高度なセキュリティ機能のスイートが搭載されており、今日の複雑な脅威に対応するとともに将来に備えることができます。新たな耐量子アルゴリズムは、重要なデータとワークロードの保護に役立ちます。

よりセキュアな鍵交換、暗号化、署名をサポートするために、Red Hat Enterprise Linux 10 には、ポスト量子暗号アルゴリズムの最初のバージョンが含まれています。

- ▶ **OpenSSL**
- ▶ **FIPS 203**：モジュール格子ベース鍵力セル化メカニズム (ML-KEM)
- ▶ **FIPS 204**：モジュール格子ベースデジタル署名標準 (ML-DSA)

これらのアルゴリズムは、セキュリティの向上と将来のコンプライアンス要件への対応に役立ちます。このような新機能のリリースを皮切りに、Red Hat は、現在の暗号化技術をよりセキュアな耐量子暗号化技術に置き換えるという、複数年にわたる戦略を開始します。

ポスト量子暗号に対する Red Hat のアプローチについてご覧ください。

[Web ページを読む](#)

Red Hat Enterprise Linux 10 の FIPS モジュールは強化・改良されており、FIPS コンプライアンスの達成に向けた取り組みを効率化します。このモジュールは、コンテナ、仮想マシン、物理サーバーなどのインフラストラクチャにおいて、FIPS に準拠するアプリケーションをデプロイするプロセスを単純化します。政府機関などの規制対象組織は、より迅速かつ確実にアプリケーションのセキュリティを強化し、厳格な認証要件を満たすことができます。この新しいアプローチは、認証に必要な時間と労力を削減するだけでなく、認証の有効期間を延長し、コンプライアンスにかかる全体的なコストと複雑さを軽減します。

Red Hat Enterprise Linux 10 ではコンフィデンシャル・コンピューティングのサポートが拡張されており、機密データを保護しながら高度な AI モデルを使用できます。ゼロトラストモデルを適用する環境で AI ワークロードを実行し、サーバー・インフラストラクチャとそこで動作するアプリケーションの両方を保護できます。機密情報へのアクセスと処理がセキュリティを重視した方法で行われるようにすることで、データの整合性を維持し、厳格なコンプライアンス基準を満たしながら革新的な AI ソリューションを提供できます。

クラウドへのワークロードのデプロイを迅速化



クラウドからは、アジリティ、スケーラビリティ、コスト最適化が期待されますが、それでも複雑さや一貫性の欠如に悩まされることが少なくありません。

ワークロードをクラウド環境に移行する際には、多くの場合、イノベーションの加速という大きなプレッシャーが伴い、あらゆる意思決定が重要になります。どのクラウドで構築するか、既存ライセンスを移行するのかマーケットプレイスから新しいイメージを購入するのか、さらにワークロードの構成をどうするかなど、これらすべてが最終的な結果に影響を与えます。

クラウド・サービス・プロバイダーは数千社存在しますが、クラウド・コンピューティングの大部分は、ハイパースケーラーと呼ばれるごく少数の大手事業者で行われており、それに独自の構成処理方法があります。新しいワークロードを設定するには、クラウドプロバイダー固有の特徴に適応する必要があります。そのためには、独自のコマンドライン・インターフェースを理解し、ネットワークやストレージの構成を学習し、セキュリティとコンプライアンスのポリシーを拡張し、現在使用している監視ツールと管理ツールがどのように統合できるか(あるいは統合できないか)を把握することが求められます。

管理者は細かい作業にとらわれ、繰り返しの手動設定に膨大な時間を費やしてしまうことがあります。その時間は、本来であればビジネスの推進に使えるはずの時間です。各クラウド環境でのインスタンスごとの微妙な動作の違いも考慮する必要があります。これらすべてが新機能やアプリケーションの提供スピードを大幅に遅らせる可能性があります。

クラウドに最適化された Linux を選択し、 あらゆるクラウドで迅速な動作と効率的な 運用を実現

追加リソースなしでパフォーマンスの向上を迫られている先進的な企業にとって、クラウドでのイノベーションの追求は不可欠です。Red Hat Enterprise Linux は、信頼性とセキュリティに優れたエンタープライズ向け Linux OS と、主要ハイパースケーラー ([Amazon Web Services \(AWS\)](#)、[Microsoft Azure](#)、[Google Cloud](#)) 向けに緊密に組み込まれた統合機能を組み合わせたクラウド最適化製品により、ハイブリッドクラウドへの移行を単純化します。これらのオファリングにより、一貫性があり、信頼性と安全性に優れたワークロード基盤が提供されるため、運用業務に時間を費やすことなく、ビジネスを推進する取り組みに集中できます。

Red Hat Enterprise Linux のクラウドエディションは、クラウド環境でのアプリケーション構築を単純化する、すぐに実行可能なイメージを提供します。この Red Hat Enterprise Linux イメージは各クラウドプロバイダーと緊密に統合され、パフォーマンス向上のために事前構成済みで提供されるため、チームの貴重な時間を節約できます。チームは手動の設定に何時間も費やすことなく、すぐに作業に取り掛かれるようになります。Red Hat Enterprise Linux には、

Cloud コマンドライン・インターフェース (CLI) などのクラウドに特化した組み込みの管理ツールが含まれています。これらは事前構成済みですぐに利用できるため、運用作業を迅速化し、Red Hat Enterprise Linux ホストから直接クラウドサービスとやり取りできます。

Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードは、オペレーティングシステムを構築、管理するコンテナネイティブな方法を用いることで、この利点をさらに拡張します。ランタイムと依存関係を単一の包括的なイメージにまとめ、そのままハイブリッドクラウド環境全体にデプロイできます。この一貫性により、インフラストラクチャのドリフトや、一貫性のないサーバー構成を管理することで生じる技術的負債を最小限に抑えることができます。

Red Hat Enterprise Linux のアセットも、クラウド環境内の他のリソースと同じ方法で容易に確認できます。Red Hat Enterprise Linux は、Amazon CloudWatch、Azure Monitor、Google Cloud Observability など、各クラウドプロバイダーのネイティブの可観測性および監視サービスと統合されています。クラウド最適化プラットフォームには、テレメトリーが自動的にデプロイされており、追加の設定は不要です。これにより管理と監視が単純化され、Red Hat Enterprise Linux のインスタンスを他のクラウドリソースやアプリケーションとあわせて一元的に表示できます。

クラウドでの運用を迅速化し、
運用を効率化しましょう。

Web ページを読む

AI をより迅速にビジネスに活用

AI は業界を刷新し、企業の運営、意思決定、価値提供の方法を変革しています。

実際、従業員数 5,000 人以上の組織の半数が、生成 AI がすでにビジネスに大きな変革をもたらしていると考えています。また、全組織の 80% が、今後 18 ヶ月以内に生成 AI が大きな変革をもたらすと考えています。¹ しかし、AI ワークロードの構築、デプロイ、管理を成功させるには、単なる高度な AI アルゴリズムだけでは不十分です。

多くの組織にとって、フルスケールの AI デプロイに至るまでの道は平坦なものではありません。AI ワークロードを効率的に管理するためには、先進的なハードウェア・アクセラレーション、継続的モニタリング機能、包括的なガバナンスなどを含む相当量のコンピュートリソースが必要となります。基盤モデルのファインチューニングであり、新規モデルの構築

であれ、組織が選択するモデルのアプローチは、データをいかに効果的に活用して革新的な予測型 AI や生成 AI のソリューションを作成できるかに影響します。さらに、法的リスクや運用上のリスクを避けるためには、AI のトレーニングに使用するデータとストレージがセキュリティ、規制、業界の標準に準拠している状態を維持することが不可欠です。

実行場所がプライベートデータセンターか、パブリッククラウド環境か、エッジデプロイメントかを問わず、組織には、アプリケーション開発を加速しながら運用を単純化できる、信頼性が高くスケーラブルなプラットフォームが必要です。

信頼できる Red Hat Enterprise Linux を基盤として AI イニシアチブを構築

Red Hat Enterprise Linux は、最適化されたパフォーマンス、包括的なセキュリティ機能、そして幅広いハードウェア、ツール、モデルとの統合性を備え、エンタープライズ IT 環境において信頼されるオペレーティングシステムであり続けています。信頼性、スケーラビリティのほか、パートナー製品およびサービスの広範なエコシステムを備えており、Red Hat Enterprise Linux AI や Red Hat OpenShift® AI を含む Red Hat AI ソリューション・ポートフォリオの理想的な基盤となります。

新たな Partner Validation プログラムは、ハードウェア、ソフトウェア、サービスのパートナーシップのエコシステムをさらに拡張し、AI ソリューションの市場投入時間を短縮します。また、Red Hat Enterprise Linux の新しい拡張リポジトリでは、Red Hat が信頼し、コミュニティがサポートする最新のコンテンツにアクセスできます。このコンテンツは、セキュリティに重点を置いたソフトウェア・サプライチェーンを通じて提供されるため信頼度が高く、より安全に制御しながらイノベーションを活用できます。

Red Hat AI によってどのように市場投入時間を短縮できるのか、ハイブリッド環境での AI ソリューションの提供にかかるコストをどのように削減できるのか、ご覧ください。

ポートフォリオを確認する

Red Hat Enterprise Linux 10 は、Red Hat AI ポートフォリオの現在のバージョンと将来のバージョンをサポートする新たな基礎機能も提供します。

- ▶ **Red Hat Enterprise Linux AI** は、Red Hat Enterprise Linux 用イメージモードを使用して構築され、最適化されたコンテナイメージによる効率的なデプロイメントとアップデートを実現します。
- ▶ **PostgreSQL ベクトルデータベースとの統合**をサポートすることで、将来の生成 AI の機能の精度が向上します。
- ▶ **機密コンピューティング機能**により、AI モデルは組織のデータをよりセキュアで隔離された形で利用でき、コンプライアンスを維持しつつ、処理中のデータを保護できます。

Red Hat Enterprise Linux は、そのミッションの一環として、IT 管理者や開発者が繰り返しミスが起きやすいタスクに時間を費やすのではなく、イノベーションややりがいのある取り組みにより多くの時間を割けるよう支援しています。AI はこの新たな進歩の時代において重要なテクノロジーとなるでしょう。Red Hat Enterprise Linux は、AI イノベーションのための安定性と信頼性を備え、セキュリティを重視した基盤を提供し続けます。

アップグレード

Red Hat Enterprise Linux 10

イノベーションを促進する信頼できる基盤をデプロイする

Red Hat Enterprise Linux 10 は、今日の最も困難な課題に対処するための大胆なイノベーションとこれまでにない新たな考え方をもたらします。Linux のスキルギャップを解消し、ビルト時間の意思決定を改善し、ドリフトを軽減し、量子コンピューティングによって生じる新たな脅威から保護できるだけでなく、実績あるパートナーとテクノロジーの広範なエコシステムに支えられた、信頼できる AI イノベーションの基盤となります。



Red Hat Enterprise Linux 10 が成功へと導きます。イノベーションは待ってくれません。

[詳細を読んでアップグレードする](#)

Copyright © 2025 Red Hat, Inc. Red Hat、Red Hat ロゴ、および OpenShift は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。